論点

- ①性暴力被害者等への支援及び潜在的な被害者への支援に関して、どのような施策が必要かお考えをお聞かせください。
- ②性暴力被害の防止や性暴力のない社会の実現に向けた施策（教育・啓発等）について、どのような施策が必要かお考えをお聞かせください。
- ③加害者の再犯防止対策に関して、どのような施策が必要かお考えをお聞かせください。

他県条例の状況

県名	被害者等支援	性暴力被害の防止・性暴力のない社会の実現	加害者の再犯防止対策	新たな課題への対応
福岡県	① 性暴力被害者支援に関する総合的な窓口（支援センター）の設置	<教育> ① 公立学校：児童・生徒への発達段階に応じた性暴力根絶・性暴力被害者の支援に関する総合的な教育（努力義務） ② 私立学校：公立学校に準じた教育（努力義務） ③ ①②の教育は県が派遣する専門的な知識・経験を有する専門家により行う <研修> ① 性暴力対策従事者に対する専門的な研修の実施 ② 県職員への研修、市町村職員、大学の学生等に対する研修機会の提供 <広報・啓発> ① あらゆる機会を活用した広報・啓発活動による条例の趣旨の周知	① 再犯防止のための専門プログラム、治療を受けるための支援 ② 指導プログラム、治療の公費負担 ③ 加害者等からの相談窓口の設置（被害者へ配慮規定） ④ 住所等の届出義務 ⑤ 届出を怠った者に対する過料	① 同意を得ることなく性的な意図を持って撮影する行為の未然防止に係る措置
茨城県	① 性暴力被害者支援に関する総合的な相談体制の整備	<教育> ① 公立学校：在籍児童と保護者に対する総合的な教育（努力義務） ② 国立、私立学校：公立学校に準じた教育 <研修> ① 性暴力対策従事者に対する専門的な研修の実施 ② 教育従事者に対する研修の実施等必要な措置 <広報・啓発> ① 県民の理解と関心を深めるための広報・啓発活動	① 再犯防止のための専門プログラム、治療を受けるための支援 ② 指導プログラム、治療の公費負担 ③ 加害者等からの相談対応 ④ 住所等の届出義務	① デジタル性暴力の根絶に向けた研修、その他の施策

(議題2) 第3章 基本的施策について

第1回懇話会での主な意見

- 日本の法制度は、この分野は未整備で大変遅れている。根拠法もないまま、ワンストップ支援センターを運営せざるを得ない状況であり、だいぶ厳しい状況に置かれ、予算がつけられないという自治体の声もある。
- この条例が各地に広がっていくための先駆的なケースとして、被害者支援、回復支援、加害者対策を盛り込んだ条例が作られればよい。
- 未成年者、若年成人、セクシュアルマイノリティの人や、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の対象になるような困難な問題を抱える女性たち、外国籍の方など、より被害にあいやすい人を特定して、特性に合わせた支援を、条例制定時から考えていく必要があるのではないか。
- 性犯罪・性暴力というのは、カウントされないまま眠ってしまっている。消されてしまった性犯罪・性暴力は、この三重県にも沢山あるのではないか。その被害者たちが声を上げられるかどうか、この条例で考えてもらいたい。
- 被害者が声を上げるのに、30年かかったことには理由がある。被害を忘れていたわけではない。被害者が声を上げるのには時間がかかる。今起こっている問題は絶対解決しないといけないし、防止もしなくてはいけない。しかし、被害後に何年も心身を病んでいる人のケアをどうするかということもぜひ考えてほしい。
- 声を上げた人だけが被害者ではなく、声を上げられない人にどれだけアプローチできるか考えないといけない。どういう制度枠組みを作っていくか、この条例の検討対象にできたらよい。
- 条例の内容については、他の関連する条例ではカバーできない部分を規定してはどうか。
- 声を上げられない背景には、無理解、偏見、差別といった意識の問題があるため、大変な壁にぶつかってしまうというのが現実ではないか。
- 「機運の醸成」の前に、基本的な理解がそもそもできているか、無理解をどうやって克服していくかというところも検討されたい。